

Title	現代フランス語のla の機能について
Author(s)	春木, 仁孝
Citation	言語文化共同研究プロジェクト. 2022, 2021, p. 39-48
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/88373
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

現代フランス語の là の機能について

春木 仁孝

1. はじめに

本稿では現代フランス語の là を取り上げて考察する。本来は場所副詞である là は、特に話し言葉において文頭、文中、文末と様々な位置で用いられて、現在ではディスコースマーカー的な様相を呈する用法も多くなっている。本稿では実例を通して là の用法を整理・検討してその意味と機能をできるだけ明らかにしたい。

考察に入る前に là の本来的、基本的な機能と、この語を取り巻く幾つかの現象について概観しておく。là は基本的には場所副詞であり発話者からやや離れた場所を指し、日本語の「そこ、あそこ」や英語の *there* に対応しており、発話者を中心とする場所を指す *ici* 「ここ、こちら」と対をなしている。là と (i)ci は *voici : voilà, celui-ci : celui-là, ce-livre-ci : ce-livre-là* のように語構成要素や付加語尾としても対比的に用いられる¹。「あちらこちら」と言う場合は *ici et là* と言うが、一方 *çà et là* 「あちこち (に)」という表現もある。*çà* は古い副詞の名残りではば *ici* と同じ意味であり、この表現や *deçà* など一部の表現に残っている。*çà et là* は *ici et là* よりもより限られた空間に対して用いられ、あたりに色々な物が雑然とある、あたりに色々な物を散らかすといったような文脈で用いられることが多い。

さて、là は (i)ci と対比されると言ったが、現代フランス語では là と (i)ci の対立が中和される傾向が強い。距離の違いにかかわらず、*voilà* が *voici* の、*celui-là* が *celui-ci* の、là が *ici* の領分を浸食しているのである。たとえば小さい子やペットに「こっちへおいで」と言う時には *Viens ici!* よりも *Viens là!* とすることが多い。「こちらです」と人を案内するときも *Par ici.* よりも *Par là.* とするのが一般的である。買い物をするときにも「これとそれをください」は *celui-là* だけを用いて *Donnez-moi celui-là et celui-là.* となることが多い。いずれにしてもこれらはすべて指示的表現であり指示行為を伴うので混乱は起こらない。より離れた場所を指したい場合は *là-bas* という補強表現が用いられる²。là と (i)ci の対立が中和される傾向が強いと述べたが、対立が中和されているように見える場合でも *ici* と là の間に違いが無いわけではない。単純化して言えば *ici* は発話者のいる場所その物を指し、là はより漠然と発話者のいる場所を包み込むように指していると言える。このような là の性格は本稿で検討していく là の様々な機能とも関係している。

場所表現が時間表現へとその適用領域が拡張されるのは普遍的なことであり、たとえば *d'ici là* 「今からそのときまで」のように用いられる。さらに意味が抽象化されて「漠然と状況、事柄を指す」といった説明を辞書にも見ることができる。

¹ 語構成要素としては *ici* は (-)ci の形で現われる。*ici* の語頭の *i* は代名詞的要素を強める接頭辞である。現代では用法は限られているが古くは *celui, celle* などに対して *icelui, icelle* のような形もあった。ついであるが *comme ci comm ça* の *ci* は直接 (i)ci からではなく、*ceci* の縮約と考えられ、イタリア語の表現 *così così* から作られた古い表現 *couci-couci* から後に *couci-couça* となった表現との相互的な影響が想定される。

² 一方、*ici-bas* は成句的に「この世、現世」という意味で用いられる。

最後に、*ci* は付加語尾としてだけでなく語頭でも *ci-après* 「以下に」、*ci-joint* 「添付の」のように用いられるが、同じく *là* も上で引いた *là-bas* だけでなく *là-dedans* 「その中に」、*là-dessus* 「その上に／それについて」のように語頭付加時としても用いられる。これらは英語の *therein* や *thereupon* などと構造も機能も類似している。語頭での用法においては *ci-dessus* と *là-dessus* のように形式的には若干のペアが存在するが、意味的には(i)*ci* と *là* の 2 項的対立は見られない。

以下では場所表現から時間表現、さらには発話状況を指す用法への拡張などの実体を実例を通して検討し、現代フランス語における *là* の機能をできるだけ明らかにしたい。

2. 空間から時間、発話状況へ

2. 1. 空間的用法からの拡張

純粹に場所を表わしている例は以下の様なものである。

(1) (商品を説明している訪問販売員に)

— *Pas mal. Et ça, là?* 「悪くないね、でそこにあるそれは？」³

(2) *Monsieur le président est là, sur le plateau.*

「会長はあそこ、舞台の上におられます。」

(3) *Tu veux aller chercher Ernest? Nous on reste là.*

「君はエルネストを迎えに行ってくれるかい。僕たちはここに残るから」

(1)では *ça* が物を、*là* が場所を指している。指示行為は物と場所を同時に指すことになる。

(2)では視線であれ何らかの指示行為を伴なう。(3)では *on reste ici* と言っても実質的な意味は同じである。まさに *ici* の領域を *là* が奪っているのである。一方、*être là* という表現は、よく知られているように場所ではなく存在そのものを表わす。

(4) *Quelqu'un est là?* 「誰かいるかい」

(5) — *Matthieu est là?* — *Oui, il est là.* 「マチューはいますか」「うん、いるよ」

このような *là* は存在を表わす *là* (*là existentiel*) と呼ばれることもある。この存在を表わす *là* は場所的な意味からの直接的な拡張と考えることができる。

(6) — *Éric, t'es là?* 「エリック、いるのかい」

— *Oui, je suis là.* 「うん、いるよ」

— *Mais t'es où là?* 「いるって、どこに」

— *Je suis ici dans le jardin.* 「ここだよ、庭だよ」

この例では *je suis là* は指示行為を伴わず存在だけを表わしているので、続けてより正確な場所を聞く疑問文が成立するのであり、この文脈ではより厳密に場所を表わす *ici* が使われている。(t'es où là の *là* はその前の発話の *là* とは性質を異にするもので、これについては後に見ることにする。) この存在を表わす *là* は肉体的な存在だけで無く、意識についても用いることができる。以下は、あるエピソードを話して聞かせていた相手はその話から

³ 短い例には日本語訳を付けるが、長い例では必要な部分を適宜本文中などで訳するに留める。

何かを思い出して意識がその記憶の方に行ってしまう時に発せられたものである。

(7) Tu m'écoutes ? Oh ! Oh ! T'es toujours là ? (Pascal Ruter : 284)

「聞いているのかい、おいおい、大丈夫かい (←意識が飛んでいるんじゃないかい)」

単に場所を表わしているように見える là もよく見ると時間的な側面も合わせ持っている場合や、同時に状況をも表わしている場合が多いことに気付く。

次例は精神的・肉体的に病んで病院にいる人が自問している場面である。

(8) Qu'est-ce qu'on fout là ? Pas là, dans cette pièce, mais là même en vie ?

(Line Papin : 123)

「自分は一体何をしているのだろう、ここ、この部屋でというのではなく、人生において」

この例の最初の là は具体的な場所を表わしているのではなく、「自分は今人生のこの時点において一体何をしているのか」と、自問全体をいわば発話状況に結びつける働きをしている。ただ、今現在は病院にいるので、心の中で発した là という言葉に対してまるでそれを聞いて第 3 者が誤解するといけないかのように「いや、今、ここ、この病院の部屋でというのではなく」「今まさに自分の人生のこの時点において」と補足・確認しているのである。この例の Qu'est-ce qu'on fout là ? の là に関連して以下の二つの例文を比べてみよう。

(9a) Qu'est-ce que vous faites ? 「お仕事は何をされているのですか」

(9b) Qu'est-ce que vous faites là ? 「(ここで) 何をしていますか」

(9a)は仕事を尋ねるときによく使われる表現である。より丁寧には *dana la vie* を最後に付け加えることもある。一方、(9b)の là は起源的には相手が今いる具体的な場所を指していたのだろうが、このような発話では「何をしていますか」という発話内容を発話の状況に結びつける役割をしている。そのことにより仕事を尋ねる (9a)とは違って「今まさにそこで」何をしていますかと行為について問うていることが明らかになる。

là は発話を発話の状況に結びつける役割をしていると述べた。(9b)の là は確かに聞き手(および話し手)がいる場所を指しているには違いないが、それだけではなく後にも見るように結果的に相手とその現場にいるという状況、あるいはその現場で何かしていること自体に対する驚きや詰問的な響きをその発話に与えている。

次例においても一見、là は場所を表わしているように思える。

(10) Quand j'ouvre la porte de la chambre 22, là c'est une tout autre histoire : M.

Richard se tord de douleur, la main posée sur sa poitrine. (Sophie Tal Men : 86)

病院での一場面を述べるこの例は、それまでの回診では何の問題も無かったが 22 号室の状況はすっかり違っていたと述べている。ここでは là は単に 22 号室という場所を表わしているのではなく、患者が苦しんでいるという事態が起こっている場としての 22 号室、つまりは発話者が見ている(体験している)事態、状況を指している言える。状況の具体的な説明は M. Richard 以下の発話で導入されるのだが、その状況は 22 号室を明けたときに既に存在していたのである。この là に訳をつけるとすると「そのとき眼に入ってきたもの(状

況) は」のようになる。

2. 2. 時間的な用法

次に時間を表わしていると考えられる là の例を見ていくが、この場合も時間から状況へと意味が拡張していくのが見られることが多い。

(11) C'est là que mes cauchemars ont commencé. Nuit après nuit.(13 à table 2022 : 47)

「まさにそのとき、私の悪夢が始まったのです。」

これは従兄弟が行方不明になったという話を聞いて、自分が従兄弟を殺してしまったと思い込んで悩んでいる人が自分の悩みを説明している場面である。この là は「そのときに」と訳せるが、「(その話を聞いた)まさにそのときに今私を苦しめている悪夢が始まった」ということであり、là は話し手がずっと苦しんでいる悪夢という重要な事態が始まった時点、そしてその状況を指している。

(12) Elle m'a embrassé sur la joue, elle est sortie du café, elle est partie sans se retourner et là, j'ai réalisé deux choses : je ne connaissais pas son nom, et à peine partie, elle me manquait déjà. (Marie-Sabine Roger : 158)

là を含む部分は「まさにそのとき私は二つのことに気付いた」と訳せるが、「知り合ったばかりの女性が去ってしまった」「まさにそのとき」に、「彼女の名前も知らないばかりかすでに彼女のことが恋しいと感じている」ことに気付いたのであり、là はその直前に生じた状況とその直後に語り手が抱いた気持ちとを強く結びつけているのである。その意味でこの là はやはり単なる時間指示だけではなく語り手があることに気付いた重要な時点、その時の状況を示し、語り手の思いを読み手に強く提示することに貢献している。

(13) (原稿の出版を断られたショックで動けなくなってしまった人に対して編集者が次の人が来るのだと言ってその人を椅子に乗せたまま他の場所へ押していく)

— (regardant sa montre) Écoutez pour le moment, je vais vous déménager parce que là, j'ai vraiment besoin de mon bureau... (Anna Gavaldà : 153)

話し手は時計を見ながら言葉を発しているが、この例の là は「もうこの時間なので」というよりも、「この時間になって次の(大事な)約束があるので」と、確認した時間から生じる状況を念頭に置いて用いられていると考えられる。

(14) — Pourquoi tu nous l'as jamais dit avant ? demande Paquita.

Je la sens un peu blessée.

— Si je te l'avais dit, tu m'aurais cru ?

— Ben non, tiens, c'te affaire !

— Et là, tu me crois ?

— Ben n...

(Marie-Sabine Roger : 68)

ここではあることに関して Paquita に家族のことを説明した場面である。この場面の là も maintenant とすることができる。しかし là を使うことでやはり「(以前なら信じなかったと言う場が) しかし今回のこの状況の中では私の言うことを信じてくれるのか」のよう

なニュアンスになり、là を用いることで対比的に現在の状況が強く意識される。

(15) (街頭から実況されるクイズ番組の司会者を誘拐する計画 (冗談) を話している)

— On arrête sa bagnole, il sort, et là, paf, ni une ni deux, on l'emporte. En quelques secondes, on l'évapore. (Pascal Ruter : 63)

この例では「(車から司会者が出てきたら) そのときにうむを言わず」と時間的経過のある一点を指しているとも言えるが、「うまく司会者が車から出てくる」という状況が生じたらというように、むしろ予想されるその状況をより問題にしていると考えられる。

このように単に時間的な繋ぎをしているように見える場合も、là は発話時点のある特定の状況を想起させる働きが強いと言える。

(16) Je stoppe le fenwick, n'étant pas sûr d'avoir bien entendu.

— Tu viens de dire quoi, là ? Qu'est-ce que ma mère vient faire là-dedans ?

(註: fenwick=フォークリフト(商標名)) (Sophie Tal Men : 172)

この例も「今なんて言ったんだい？」と時間的にも訳せるが、もはや時間と言うよりも相手が何か言ったという行為、さらにはその言葉を指していると考えべきであろう。実際、この場面では相手の言った言葉はある程度聞こえているものの、その中に ta mère という言葉があったので「一体私の母親がこれに何の関係があるのだ？」とあるように、相手の言動に引っかかりを感じて多少とも非難しているニュアンスが感じ取られる。

2. 3. 関係 (対比) を表わす là

次に関係または対比を表わしていると思われる例を検討してみよう。ここで関係と呼ぶのは「それについては、そのことに関しては」のような意味を表わしている場合であり、多くは発話の最初、もしくは最初近くに用いられ、et là, mais là, alors là, là encore など接続詞や副詞とセットになっている場合が多い。これらの例では là は、その発話を先行文脈で導入された発話状況に強く結びつける役割を果たしている。

(17) (パーティーに潜り込む算段はついたが、女の子をものにするためには送っていくと誘うための車がいると考えたところで)

Et là, la situation est critique. Franck n'a pas son aspirateur à belette : en révision, et Alexandre n'a pas la voiture de sa mère : elle est rentrée à Paris avec.

(註: aspirateur à belette「女の子を引き寄せるかっこいい車」) (Anna Gavalda : 92)

この例は、「で肝心の車に関しては (自分たちが置かれている) 状況は最悪だった」のように訳せる。

この種の là は「それに関しては」のような訳ができる場合が多いと言ったが、以下の例ではそれがさらに明示的に現われている。

(18) En ce qui concerne la convalescence de Vanessa, là aussi, Maryse avait, bien entendu, une réponse à toutes les questions et interrogations.

(Bruno Combes : 159)

この例は en ce qui concerne 「～に関して」で導かれた句で始まるが、その直後にある là

は *En ce qui concerne la convalescence de Vanessa* 全体を受け直しており、「ヴァネッサの回復状況のことだが、それについても」のように訳せる。

既に述べたように、この種の用法では *là* の前後に接続詞や副詞を伴っていることが多く、先行文脈の内容が強く提示される効果は対比のニュアンスを強めるそれらの接続詞や副詞の働きが大きいとも考えられる。以下の例は絵についての議論であるが、「醜いものも描くことができる」と言ったあとで「でもその場合も」と *là* を用いて続けている。ここでも *mais* と *encore* の寄与が大きい。

(19) — *C'est l'art de mélanger les couleurs pour faire quelque chose de beau.*

— *Ou de laid, pourvu que ce soit expressif et que ça crée des émotions. On peut aussi peindre la laideur. Mais, là encore, il faut saisir l'essence de la peinture.*

(Marc Trévidic : 81)

仮に関係または対比を表わす *là* と呼んだが、先行文脈の内容を発話の頭で主題として取り立てていると考えることもできる。日本語にする場合も「～に関しては」、さらに対比が強ければ「～の場合は」のように訳せることも多い。

以下は祖父と孫が買ってきた子犬の犬種を父親が尋ねたのに対して祖父がおまえはどうして何でも分類したがるのかと怒った場面での会話である。

(20) — *Ne te fâche pas, bougonna mon père. C'était juste pour savoir. Parce que souvent on dit « c'est un caniche », « un labrador », « un... ».*

— *Ben là non, on dit juste « c'est un chien ». Un chien croisé chien. Point à la ligne !*

(Pascal Ruter : 27)

là を含む箇所を分かりやすいように補って訳すと「(そうかも知れないが) この場合は／この犬については違う、「これは～犬だ」とかは言わない、) 単に「これは犬だ」と言うだけだ」のようになるだろう。結局 *là* は先行文脈で導入された要素や状況を他の場合と対比して強く提示しているのである。

文頭の例をもう一つ挙げておこう。以下は画家である Paul が脚韻について自分の考えを文章にまとめている場面である。

(21) *Là, ça devient intéressant, pensa Paul. Il se remit à écrire.* (Marc Trévidic : 91)

この文の直前には語り手である Paul が脚韻について書いた文章が数行に渡って書かれている。ここで考えるべきことは指示的な語である *là* と *ça* がこの発話には並んで用いられている点である。*là* はこれまでも見てきたように直前に導入された要素や状況を指すが、ここでは語り手が書いたものとして引用されている数行の文章がそれになる。一方、主語としての *ça* にはこれまでも春木(2014)などで論じてきたように何かを指示していない場合(例：*ça sent bon !*) も多いのだが、ここでは指示的に用いられていると考える。それでは *ça* は何を指示しているかということ、直前の文章の内容も含んで脚韻について考えてそれを文章にまとめるという語り手が現在行っている行為全体を広く指しているのである。その行為がある程度進んで、今書いた文章の内容を考えるとだんだんと興味深いものになって

きたと言っているのである。日本語訳を試みると、「ここに至って（この脚韻についてのまとめも）なかなか興味深いものになってきた」ぐらいだろうか。ここでは副詞や説属詞も伴わず、また「～に関しては／～の場合は」などの訳はできないが、それ以前のものと対比しているという点では(17)~(20)の例の *là* と機能は実質的には同じであると考えられる。

ところで先行文脈の内容に関して「それについては」という意味で用いられる *là-dessus* という語があるが、こちらはここで問題にしている *là* の用法よりも、発話内での役割は内容的には軽いと思われる。用いられる位置も発話の頭よりも、発話内、発話末であることが多い。発話の頭で主題を導入するという機能は無く、たまたま発話の頭に用いられても、問題となっている状況を強く提示する機能はない。

(22) *Je sais presque rien là-dessus.* 「それについてはほとんど知りません」

2. 4. 念押し、確認を表わす *là*

一方、発話末に現われる *là* の用例の中には強さの程度には幅はあるものの、念押し、確認のようなニュアンスを付け加えているように思える例も多い。

(23) — *J'ai pas trop le temps, là. Je dois y aller. Tu peux venir, si tu veux.*

(Marie-Sabine Roger : 147)

「悪いけど今は時間がないんだ、行かなくちゃ、来たかったらついて来てもいいよ」

この *là* は *maintenant* と置き換えられるようにも思える。しかし「悪いけど今は」と訳したように *là* を使うことで状況説明はされないものの話し手が置かれている状況が、相手の話を聞く時間が無い程度には重大であるということを暗に示すことができるのである。

(24) (電話で) — *Tu viens pas avant midi OK ? Je suis crevé je veux dormir, là, sinon j'ouvre la porte et je te fracasse la tête avec une bouteille.*

(Raphaël Haroche : 137)

この例の *là* は「とにかく (今は)」のように訳せるが、「(今は) 非常に疲れていて、とにかく眠りたい」という状況であることを強く相手に伝えたいというニュアンスで用いられている。

例(6)の *Mais t'es où là ?* の *là* もこの念押し、確認の *là* と考えられる。

以上のような *là* の用法とも密接に関連するが、Claude Daneton は *Figaro* 電子版の記事 (<https://www.lefigaro.fr/langue-francaise/expressions-francaises/2018/01/26/37003-2018-0126ARTFIG00007-ici-et-la-ne-faites-plus-la-faute.php>) で、90 年頃から定型表現の後に *là* を付加するという現象がちょっとした流行になったと言って以下の様な例を挙げている。

(25) *Tais-toi, là! Tu nous fatigues, là! Il est sympa, là Rien à cirer, là.*

Daneton はそう述べた後に *On peut dire que c'était abusif, là!* と皮肉っぽい結論で文を終えており、これらの *là* は必要のない要素のように考えているようである。しかし、このような *là* についても、当該の発話を話し手が置かれている状況、または眼の前で起こっている状況により強く関係づけるという役割を認めることはでき、必ずしも不必要なものであるとは言えないだろう。

この種の発話末に現れる *là* を、多くの辞書が「直前の言葉の反復、強調」などとして副詞の *là* と区別して間投詞としているが、その機能を考えた場合、やはり副詞とされている *là* と連続的なものとして考えるべきである。

2. 5. 非難の *là*

発話末で確認や念押しの役割を果たしている *là* について見たが、一方で発話末に用いられる *là* の中には(16)の例も含めて聞き手あるいは第 3 者の言動に対して、驚いたり、あきれたり、非難しているニュアンスを表わしているように思える例がよくある。

(26) (新型歩行器を勧めた訪問販売員に年配の男性が腹をたてて)

— (...) *Est-ce que vous pourriez me dire à qui est destiné tout votre bastringue, là ?* (Pascal Ruter : 39)

(27) — *Tu me parle de quoi, là ? Ça ne te regarde pas...* (Sophie Tal Men : 172)

(28) (精神科に妻を連れてきた男が妻についてひどいことを言ったのに対して医者が)

Il parlait de quoi, là ? D'un appareil ménager ? Avait-il le droit et le pouvoir de la forcer à venir à l'hôpital ? (Sophie Tal Men : 79)

(29) *Et puis quoi encore ? Tu ne veux pas cent balles et un Mars, pendant qu'on y est ?*

— *Tu ne crois pas que t'exagères, là ?* (...) *Responsabilise-toi un peu, Baptiste !* (Aurélie Valognes :19)

この種の発話は疑問文の形をしていても、驚きや非難、時に拒否などを表わしており発話末の *là* がそのニュアンスを強める役割をになっている。とは言っても、*là* そのものに非難などのニュアンスがあるのではなく、非難や驚きを表わす発話末に用いられることで当該の状況と驚きや非難を表わす発話の内容が強く対比され、結果的に非難や驚きの意味が強められると考えられる。

3. 状況を表わす *là* から名詞的な用法へ

là を用いた定型的な発話に以下のようなものがある。

(30) *C'est là le problème.*

(31) *La question n'est pas là.*

(30)の *là* も本来的には先行文脈の内容を受けて「そこに問題がある」と状況を指していたものが、「それが問題だ、それこそが問題だ」のようなニュアンスで用いられるようになったものである。一方、(31)は「問題はその点にあるのではない」「問題はそれではない」とでも訳せるだろう。日本語ではいずれも *là* を副詞的に訳すこともできるが、代名詞的に訳すことも可能である。*là* が代名詞的に解釈できるということに関しては、(31)の例に類似した以下の様な用法も考慮する必要がある。

(32) — *Et ça figure aussi dans votre règlement qu'une interne se fasse tabasser par un patient dans la rue, peut-être ?*

— *Euh, non..., recule-t-elle. Bien sûr que non ! Mais là n'est pas la question.*

(Sophie Tal Men : 260)

(33) (秘書が雇い人の妻に嘔吐薬を飲ませたことを責められ、実は雇い人に思いを寄せていたことを告白し、どうせ私は魅力的ではないですものね的なことを言った後で)

— Vous êtes une très jolie femme, mais là n'est pas le propos ! poursuivit Maximilien. Vous avez empoisonné Romane, nom de dieu ! À cause de vous, elle a été malade comme un chien !

(Raphaëlle Giordanao : 297)

(34) (離婚した女性が、子供達は父親に会いたいと言わなかったのかと問われて)

— Ils ont demandé à le rencontrer à dix-huit ans. Mais ils n'avaient rien à se dire. Ensuite, ils se sont passés de lui. Là n'est pas l'essentiel.

(Jean-Christophe Rufin : 43)

それぞれ「そのことは問題ではない」「それは本題ではない」「それは肝心なことではない」のように訳せる。ここで問題になるのは *Là n'est pas la question.* は *La question n'est pas là.* の倒置文なのかどうかという点である。先ず構文的には、そして起源的には *là* で始まる文は対応する *là* で終わる文の倒置文であると考えられる。たとえば(31)は *Là n'est pas essentiel.* のように名詞 *l'essentiel* を形容詞に置き換えるのは難しい。つまり *là* は名詞主語にはなりえないのである。しかし実際の用例を検討すると、意味的には文頭の *là* は明らかに先行文脈の内容を指して主語的な役割を果たしている。以下の例ではそのことは一層、明らかであろう。

(35) *Satisfait ou insatisfait, là est la question.*

「満足しているのかしていないのか、それが問題だ」

ハムレットのあの台詞のフランス語訳が *là est la question* であるように、この例の後半の部分は英語であればまさに *that is the question* となるところである。

4. 結論にかえて

先ず *là* は *ici* と対比される場所副詞であり、実際、単純に場所を指している用法も多い。また場所的用法が抽象化されて、状況的に今ある段階にあるというような意味で用いられる場合もある。そんな *là* が、次第に発話者がいる場所をも含む広い場所、そして発話の場、さらには発話状況を指すようにその機能が拡張されていった。そして単に発話の場の状況を指すだけで無く談話の流れの中で当該の発話を発話状況に強く結びつけるというディスコースマーカータ的な働きをもするようになった。発話状況というのは当該の発話自体が発話と共に提示する場合もあるが、多くの場合は先行文脈で導入されて、当該の発話の時点においても存続している。時間的経過に重点がある場合は、「そのとき、今」などと訳せる場合もあるが、そのような場合も実際は「そ(こ)の状況の中で」のように単に時間的というよりも、時間の経過によって生まれた状況を指していると考えられる。さらに *là* が実質的に発話の最初に用いられている多くの場合、先行文脈で導入された発話状況と当該の発話が対比的に結びつけられて、*là* は「～については」「～の場合は」というように主題を

表わすことも多くある。このような場合とも密接に関係して、là がまるで名詞主語のように振る舞っている *là est la question* のようなタイプの発話も存在している。

一方、発話末において見られる là は辞書においては間投詞とされることが多いが、念押しや確認と考えられる場合も、結局は当該の発話を発話状況に強く結びつけるという意味においては、là の他の用法とも連続的に捉えるべきであろう。

本稿で取り上げた là の機能は、筆者がこれまでに研究してきた ça の機能ともある程度似ているところがある。ça は指示的な場合も単に何かを指すのではなく、対象となるものを取り巻く全体的な事態を指している。さらに *ça fume!* 「なんか煙っているよ」のような発話では ça は何かを指しているのではなく、煙るという事態を発話者がまさに経験していることを表わしている。つまり当該の発話が表わす事態を発話者がインタラクションを通して表現していることを表わすのが、非指示的な ça の機能である。一方、là は先行文脈、もしくは当該の発話によって導入された発話状況を他の場合と対比的に提示し、当該の発話を発話状況に強く結びつける働きをしている。その結果として、様々なニュアンスを表わすことになる。発話末で用いられる là はもはやディスコースマーカであると言える。

いずれにしろ、話し言葉において以上のような性格を持った là が高い頻度で用いられるのは、現代フランス語の話し言葉が持つ I モード的な性格と大いに関係している。

[引用作品]

Combes, Bruno (2018) *Parce que c'était toi...* J'ai lu 12146.

Gavalda, Anna (1999) *Je voudrais que quelqu'un m'attende quelque part*. J'ai lu 5933.

Giordanao, Raphaëlle (2017) *Le jour où les lions mangeront de la salade verte*. Eyrolles.

Haroche, Raphaël (2017) *Retourner à la mer*. folio 6520.

Les restos du cœur (2021) *13 à table 2022*. pocket 18272.

Papin, Line (2019) *Les os des filles*. Stock.

Roger, Marie-Sabine (2014) *Trente-six chandelles*. la brune au rouergue.

Rufin, Jean-Christophe (2019) *Les trois femmes du Consul*. folio 6929.

Ruter, Pascal (2017) *Barracuda for ever*. Le livre de poche 34876.

Tal Men, Sophie (2017) *Entre mes doigts coule le sable*. Le livre de poche 34944.

Trévidic, Marc (2016) *Ahlam*. Le livre de poche 34358.

Valognes, Aurélie (2017) *Minute, papillon*. Le livre de poche 34863

[参考文献]

春木 仁孝(2012)「フランス語における事態の認知方策について」『言語文化研究』38 : 45-65. 大阪大学大学院言語文化研究科.

春木 仁孝(2014)「ÇA を主語とする発話と認知モード」『フランス語学研究』48 : 63-84. 日本フランス語学会.